

群 教 セ	G15 - 01
	令 2.274集
	高-キャリア

令和 2 年度長期社会体験研修報告書

研修先：株式会社SUBARU

長期社会体験研修員 正田 祐子

I 研修内容

1 研修先の概要

株式会社SUBARUは、1953年に総合輸送機メーカーとして「富士重工業株式会社」を設立し、創業100周年を迎えた2017年4月1日に、社名を「株式会社SUBARU」へと変更した。

主な事業内容は、自動車部門と航空宇宙カンパニーの二つである。自動車部門は、群馬県と東京都に拠点を置く。先進運転支援システム「アイサイト」や水平対向エンジン「SUBARU BOXER」が有名であり、高い安全性能や優れた走行性能を追求した製品開発を行っている。最新のアイサイトXを搭載した新型レヴォーグは、2020-2021年の日本カーオブザイヤーを受賞し、その技術は高く評価されている。航空宇宙カンパニーの拠点は栃木県と愛知県にあり、自衛隊のヘリコプターや固定翼機、無人機の開発・生産を行っている。海外にも拠点を持つグローバルな企業である。

2 研修先での主な研修内容

(1) 人事部人事課人材開発係での研修【4月1日～3月26日】（研修場所：本工場）

人材開発係は、主に社員の教育に関する業務全般を担当している。新入社員教育を始めとした様々な階級を対象とする研修の企画・運営や英語教育、技能五輪選手の育成も行っている。他にも自己啓発のための通信教育や公開講座の事務局業務、改善活動や資格取得の資金援助など幅広く社員のスキルアップをサポートするための業務を行っており、事務局として業務に携わった。

研修業務では、主に国際化教育に関する業務に携わった。社内TOEIC-IPや時間外語学講座の開催、海外赴任者への英会話教育等の事務局業務を行った。その他にも毎月各部署で行われる月例会の資料の作成・編集や様々な研修の運営補佐、伝票の処理などを行った。また、年度末には次年度の新入社員研修の企画や準備に携わった。

(2) 新入社員研修【4月1日～4月7日】（研修場所：本工場）

例年二週間近くかけて行う研修を一日に短縮し、部署ごとに分けて開催をした。社会人に必要なマナーやコミュニケーション、コンプライアンス安全衛生教育などの講義資料を印刷し、運営や会場設営の補佐をしながら新入社員と一緒に聴講した。

(3) 新入社員フォローアップ研修【10月15日～12月24日、毎週木曜日】（研修場所：研修施設）

4月にできなかった教育内容や新入社員同士の交流を深めることが目的の研修である。企画の段階から携わり、チームビルディングの研修内容を企画提案した。資料の作成と印刷、受講者への案内の送付、会場準備を行い、自分も講師や司会として研修を実施した。

3 キャリア教育実践

(1) キャリア教育資料について

企業での研修を通して、人事部の方に社会人に必要な資質・能力や高校生の中に身に付けてほしい能力についてアンケートを実施した。そのアンケート結果を基に、高校生向けのキャリア教育リーフレットを作成した。リーフレットは進路に悩む高校生と社会人の対話形式で全体を構成し、読みたくなるよう工夫した。前半は、高校生と社会人の社会的立場の違いや一日の流れなど、社会人のイメージが伝わりやすくした。後半は、アンケート結果を載せ、高校生が今取り組むべきことなど、読んですぐ実践できるような具体的で分かりやすい内容にした。業種や職種に関わらず、様々な進路を希望する生徒にとって将来を考えるヒントとなるよう作成した。

(2) 実践の概要（県立桐生工業高等学校）

授業実践

題材名 「なりたい自分になるために」～今からできること～（特別活動）

対象 機械科 第2学年2組 39名

将来の変化を予測することが困難な今の時代において、将来の目標を立て、それを達成するためには主体的な進路選択ができる資質・能力が必要不可欠であると考え、「キャリアプランニング能力」の育成のための題材を設定した。授業実践するに当たり、研修先企業の社員130名に社会人に必要な資質・能力についてのアンケートを行い、アンケート結果を教材資料として生徒に配付した。本時では、将来なりたい人物像を実現するためのキャリアプランを作成させた。そして、社会人に必要な資質・能力を身に付けるために今の高校生活で何を実践するか考え発表させた。授業後のアンケートでは、「将来についての見通しが明確になった」と回答した生徒は9割となり、また「本時のような授業は将来を考える上で必要だと思うか」という質問には全員が「そう思う」と回答した。生徒が今後主体的な進路選択をするに当たって、有意義な授業実践であったと考える。

II 研修成果

1 人材開発係での研修について

今年度はコロナ禍で集合教育ができない影響により、予定していたほとんどの研修が中止や延期、内容の変更を余儀なくされた。また、在宅勤務や時差出勤などの新しい働き方の導入により、業務効率化の必要に迫られた。そうした変化に迅速に対応するために、社員の方々は臨機応変な対応や主体性、チームワークなどを求められ、日々の業務にあっていた。企業での研修を通して、これらの能力がこれからの社会に生きる上で必要不可欠な能力だと実感した。そして高校生活の中で生徒に身に付けさせたい能力であると感じた。

2 新入社員教育について

新入社員の課題として、挨拶や返事の声が小さい、目を見て話ができない、必要な報連相ができないなどの意見が現場から挙がった。それらの課題に対する資質・能力は、高校の基本的な生活習慣の中で生徒が身に付けることができると感じた。今後生徒を指導する際には自身が企業で学んだことを踏まえて、改めて挨拶や返事などの基本的なマナーの重要性を伝え、生徒が主体的にそれらの資質・能力を身に付けられるように働きかけていきたい。

3 キャリア教育実践について

授業実践で、社会人に必要な資質・能力を身に付けるために今後の高校生活の中で実践できる取組を宣言させた。その一週間後に、実際に実践しているかどうかのアンケートを行い、8割の生徒が実践していると回答した。生徒は宣言した取組を実践することでその行動の大切さや難しさを実感し、自分自身に必要な資質・能力について見直す機会になった。生徒が将来に向かって進み始めていることを実感でき、改めてこのような将来を考えさせるキャリア教育の授業が生徒にとって必要だと感じた。

III まとめ

人事課での研修や授業実践を通して、自分自身が明確な目標やキャリアプランを具体的に考えていないことに気付かされた。まずは、自分が目標をもち、計画を立て試行錯誤している姿を生徒に示し、生徒にとっての模範になることができるよう今後の教員生活を過ごしていきたい。また、授業実践で行ったキャリア教育を継続的に実施し、生徒が予測のつかない社会の変化に柔軟に対応できるよう、常に先を見据えて今何をすべきか考えられる資質・能力を育てていきたい。

（担当指導主事 今川 一生）